



新地町中央の小高い丘の上に建つ総合病院



力強いフレームが現れた外観。手前は国道6号線・太平洋



太平洋を望む明るい談話スペース

渡辺病院 |

医療法人伸裕会渡辺病院は南相馬市で大正15年から長きにわたり、急性期医療、福祉事業を担ってきた。3.11の東日本大震災後は、地域の人口に大きな異動が生じたため、福島県沿岸被災地北部の新地町に医療過疎への対応または災害復興・地域の発展を目指して全面移転し、140床の病院を新築する計画。

■来院者に元気をくれる、ホスピタルストリート

1階中央の南北軸に幅6mで自然光の入るホスピタルストリートを配置した。このストリートに沿って、エントランス・医事・外来診療・検査部門が機能的に配置されている。来院者にとってわかりやすく気持ちのよい空間となっている。ストリートの正面はステンドグラスを通して緑地に大きく開かれていて開放的である。

■明るく360度展望の開けた病棟と個室的な4人室

病院は新地町中央部の小高い丘の上にあり、東は太平洋に、西には阿武隈山系が連なり、病棟の各所から展望が開け、来院者にとってさわやかな空間となっている。4人室の病室は、それぞれのベッドの枕元に窓を持つ計画となっていて、居心地のよいベッド周りの設えがつけられている。

■機能的な看護活動の実現とオープンスタイルのスタッフステーション

病棟各フロア中央にスタッフステーション・ELVホール・光庭・談話室等共用スペースを配置している。スタッフステーションは共用スペースにオープンな形で突き出して看護活動のしやすく明るい室内環境となっている。

■地震災害に強い免震構造システム採用

地震災害に強い免震構造システムを採用し、大災害時の緊急対応に貢献できる病院とした。

■健診スペースの充実

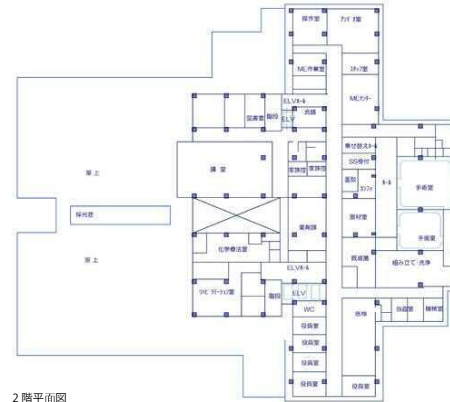
健康診断の専用玄関を来院者にわかりやすい正面に設置する等健診スペースを充実させ、予防医療を重視した計画である。

■3.11被害日本大震災後の労務・材料供給の容易でない中での工事
沿岸被災地での工事のため、労務・材料供給は容易でなく、生コンクリートの供給・スケジュールの調整等に多くの時間を要した。

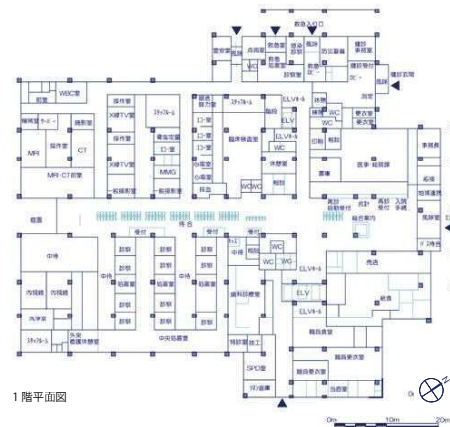
(石井久克、高橋広見)



3階-5階平面図



2階平面図



1階平面図

所在地 福島県相馬郡新地町駒ヶ嶺字原92
 建築主 医療法人伸裕会
 構造設計 優構造設計(千葉 直)
 設備設計 アーク(沼倉邦彦)
 造成設計 日建(櫻井雄志)
 施工 建築:荒牧建設
 電気:エディンソン
 機械:ユアテック

構造・規模 RC造
 地上5階 塔屋1階
 敷地面積 19,707.18㎡
 延床面積 12,388.09㎡
 病床数 140床
 竣工 2014年2月



エントランスからホスピタルストリートと総合受付



ホスピタルストリートの一次待合と正面の自然に開放された視界



共用スペースに突き出し、オープンなスタッフステーション



個室の4人床病室・各ベッドのサイドに窓が設けられている